

編集後記

(56巻 第5号 2010年5月)

盛岡で行われた第98回泌尿器科学会総会に参加し、その帰りの新幹線で編集後記を書いている。今回の総会でも、AUA, EAU, UAAなど国外の泌尿器科関連学会との連携を深めるプログラムが企画されていた。日本泌尿器科学会では、AUAとの医師のエクステンジプログラム、UAA参加国に対する若手泌尿器科医の短期の受け入れプログラムなどを開始され積極的に国際交流が進められている。国際交流を深めながらわれわれ自身のレベルアップを進めていくことには大賛成であるが、世界の中での日本の立場をどのように確立していくかという中長期の構想を明確にしておく必要がある。特に、日本の果たすべき役割は何か、そして学会会員にとってのメリットは何かという視点が重要だと思う。

総会の開催前にはUAA主催の“Young Leader’s Workshop in Kyoto 2010”を京都でお世話した。日本で始まったUAAの20周年を記念する意味も含め企画されたworkshopには、アジア17カ国から30名を超える若手泌尿器科医が集まり、アジアにおける泌尿器科疾患ガイドラインの是非に関して2日間の討論を行った。Farewell partyの時には参加者同士の打ち解けた関係もできあがり、UAAにおける日本の役割を果たすことができたのではと思う。

この4月末は、アイスランドの火山噴火に伴う航空事情の混乱があり、EAUに参加した世界中の泌尿器科医がトラブルに巻き込まれたと聞いている。泌尿器科学会総会も京都でのworkshopも若干の影響を受けたが、両会とも大きな混乱なく運営できたことは幸いなことであった。

(小川 修)